

ご挨拶

今年も生物科同窓会ニュースを、東京学芸大学全国同窓会「辟雍会」とタイアップしてお届けします。

生物科同窓会の総会員数は今年で2,165名（退職された先生も含む）に達しました。本年3月には第58期生が巣立ち、これからも毎年、40名近くの会員が加わり増え続けます。この規模は、大学内に幾つかある学科別同窓会のなかで、ベストスリーに入ります。しかし、住所がつかめない会員もかなり上り、今回のこのニュースの発送部数は1,556部にとどまりました。

このニュースは、年一回発行して、本同窓会の活動状況や大学（主に生命科学分野）の出来事、「紙面同窓会」での会員相互の情報交換などを掲載していますが、年々会員数が増えるにつれて、同窓会の幹事（8名）だけではニュースの発行や同窓会の運営

にも困難を感じるようになりました。また、同窓会そのものの存続の意義についても改めて考える時期に来ているように思います。例えば、若い会員からの紙面同窓会への寄稿が殆ど無いことが気になります。今後この同窓会を意義あるものにするためには、会員皆様のご理解とご支援が必要です。今年の総会（11月20日、土曜日・14:00から）では、役員改選や同窓会の在り方・運営などについて審議していただきます。当日は、「小金井祭」期間中で大学の「ホームカミングデー」に当たりますので、秋の一日、リニューアルが進む母校へ足を運ばれ、同窓会企画の特別講演会とそのあとの総会に多くの会員が出席いただくようお願い申し上げます。

（生物科同窓会幹事長 岡崎 恵視）

◆平成22年度 生物科同窓会による

キャンパス内自然観察会のお知らせ

恒例の自然観察会を生物科同窓会と学芸大学生命科学分野との共催で、東京学芸大学のキャンパス内で下記の通り行います（参加費無料）。この観察会は、学芸大学で教員を目指す学生諸君や同窓生、市民の方に野外観察の楽しさと重要性を伝えるために以前から企画されているもので、生物科同窓会の会員の有志及び学芸大教員が指導いたします。これまでは、春のキャンパスで5、6月頃に実施していましたが、今年は秋のキャンパスで、秋の昆虫、種々の樹木の紅葉や種子散布戦略、などを観察ポイントにして行ないます。今回は多くの学生諸君の参加者を募るため、学芸大学の学修・キャリア支援プロジェクト「学芸カフェテリア」の1メニュー「気がつかなかったもう一つの世界—学芸の森の自然観察会」として実施することになりました。同窓会会員の方々にも是非ご参加いただくと共に、周りの市民の方々にもお声をかけていただき、楽しい、有意義な観察会にしていただくようお願い申し上げます。

記

1. 日時：平成22年10月31日（日）
13:00～15:30（小雨でも決行）
2. 集合場所：東京学芸大学南講義棟（S棟）と北講義棟（N棟）の間の広場
3. 指導者
昆虫関係：東京農業大学非常勤講師
青木 良 先生（11期生）
植物関係：学芸大学生命科学分野准教授
真山 茂樹先生（26期生）

なお、当日は記録ノート、ルーペ、ビニール袋、カメラなどをご持参いただければ便利です。

◆生物科同窓会「企画講演」のお知らせ

今年も同窓会総会に先立って、恒例の企画講演会を下記の通り開催いたします。当日は学園祭である「小金井祭」の期間中で、大学企画の「ホームカミングデー」に当たります。

本年の講演者は29期の同窓生石井雅幸先生にお願いいたしました。先生は、昭和56年に東京学芸大学小学校教員養成課程（理科選修）を卒業され、東京都の小学校に勤務され、その間東京学芸大学で平成13年に理科教育学の修士号を取得されました。そして昨年、大妻女子大学家政学部児童学科に赴任され、同大学の准教授として活躍されております。大学では、理科教育、生活科教育及びこれらの教材研究などを担当されています。本講演は一般公開ですので、多くの同窓生、市民、教師を目指す学生諸君のご参加をお待ちしております。

日時：平成22年11月20日（土）13:00～13:50

講演：小学校の理科授業で体験する意味を問う

こどもにとって理科の授業ってなに？

—小学校の理科を通して—

講師：石井 雅幸 先生（大妻女子大学 准教授）

場所：東京学芸大学自然科学系研究棟1号館（旧自然館）2階 生物学第一実験室（CN 206室）

【石井雅幸先生からのメッセージ】

理科離れが、こどもから小学校教員まで広がって

きている現実の中で、小学校における理科授業の姿、理科で観察・実験を行う意味や意義が改めて問われてきている気がします。理科の授業では、観察や実験を行うことは当たり前で、大切だと言われています。しかし、観察や実験は何のために行われるのでしょうか。欧米の理数系の分野に強く入り込んで

ているインドやネパールの若者、彼らはこども時代に理科の実験を行ってきたのでしょうか。そんな疑問をもつ中で、改めて小学校を中心にして「理科」ってこどもにとって何なのかを考えてみたいと思っています。是非、皆さんの声も聴かせてください。

◆生物科同窓会総会のお知らせ

平成22年度生物科同窓会総会を、上記「企画講演会」の後に同会場で開催いたします。下記のように、今年度は次期幹事の選出など重要な議題がありますので、多くの会員のご出席を願います。

日時：平成22年11月20日(土)

14:00~15:00

議題 ①新幹事選出

②生物同窓会ニュース編集委員会の設立

③同窓会の今後のあり方 など

場所：東京学芸大学自然科学系研究棟1号館（旧自然館）2階 生物学第一実験室（CN 206室）

（上記の「企画講演会」と同じ会場です。会員の方は講演後そのままお残りください。）

特別寄稿

早々と退職しました

片山 舒康

2010年3月末に大学の早期退職制度に乗っかって、早々と退職させていただきました。

振り返ってみますと36年間、ずいぶん長い間、東京学芸大学にいたものです。着任当時はまだ若々しかった図書館前（噴水池の周り）のケヤキの木々もすっかり老木になってしまいました。大学構内のあちこちに残っていた木造建築物はすべてなくなりました。自然館も二度の改修を経て、以前のシンプルな外観ではなくなりました。自分も膝が痛くて歩くのがつらくなりました。時代の流れを感じますね。

思い起こせば、在職中に色々なことがありました。お世話になった方々も多いし、お世話した方々も多い。本当に多くの方々とのお出会いと別れがありました

た。書き始めればきりがないのでやめましょう。

退職して五ヶ月あまりがたちましたが、ハローワークにも行かず今に至っています。7月末までは、退職したのになぜか週2日、東京学芸大学に授業をしに行っていました（8月前半はその成績付けで汗かくでした）。実家に生物教育研究所という看板を掲げて勉強を続ける予定なので、残りの週2日は荷物整理をしに行っています。その残りの日々は自宅で主夫をしています。

今後は、生物学の研究は無理なので、主に文献学的な方面から生物教育・理科教育に関わっていくつもりです。また、自然観察や室内実験の講師などを引き受けたり生物教材などに関する情報提供をする、生物教育サポーターに登録しました。すでにこの夏休みには、唐津市（佐賀）と蒲郡市（愛知）でワークショップ講師をしました。何か機会がありましたら、お声をかけてください。あるいは情報が必要でしたら下記へお問合せください。

nobukei@oregano.ocn.ne.jp

◆生物科紙面同窓会

生物科同窓生の「今」の声をお届けします。同窓生と言えども、なかなか会う機会がないのが実情です。この紙面同窓会で情報交換が行なわれ、同窓の繋がりがますます深まれば幸いです。今回は3、7、11、15、19、23、27、31、35、39、43、47、51、55期の同窓生で、平成19年度までの会費を納められている会員91名に原稿を依頼しました。その結果、18名の投稿がありましたので紹介いたします。

【3期】

●公立小学校を定年退職後、未だにとある専門学校の講師をさせていただいている。担当は生物とは全く関係のない科目だが、つい「生物の多様性」だとか「新しい植物分類」と言った話に脱線してしまうことが多く、学生に「先生、何の講義してるんですか？」などと皮肉られることがよくある。でも、そんなときは「生物科出身というDNAの為せる業さ」

と、内心ほくそ笑んでいる今日このごろである。

「K.Y：昭和30年卒」

●佐藤栄作氏のノーベル平和賞は返還すべきだ。沖縄の米軍基地の縮小について国会でも大問題になっている。佐藤栄作（元首相）氏の自宅から日米の密約文書が発見され、沖縄返還は米軍基地継続使用の密約と引き替えだったことがわかった。その時の交渉人だった若泉 敬氏はその責任を感じて自殺されたとのこと。密約をかくしての沖縄返還、日本人にとって彼は平和に貢献したことになるのか。私は即刻平和賞を返還すべきと考える。

「N.K：昭和30年卒」

●私は元気しております。生物科同窓会のご発展をお祈りいたしております。

「K.M：昭和30年卒」

【11期】

● 都立高校(長)を退職した後、都高尾自然科学博物館、都立農業試験場、都農林水産振興財団に勤務した。その間、平成13年から17年まで国立教育政策研究所の教育課程実施状況調査(高校生物)に関わり、片山舒康先生とも一緒に研究させて頂いた。現在、東京農大(厚木)の非常勤講師の他、北杜市の光発電施設の調査(昆虫)を担当している。

「R.A: 昭和38年卒」

●今年古希を迎えました。指導教官(川崎次男先生)がはやくに亡くなられ、在職期間も短かった私には、大学はかなり遠い存在でした。ここに来て、同窓会、同期会、クラス会等急に増えた感じです。生物学の最新情報、専門分野の講義、チンプンカンであっても得がたいチャンスです。もっと大勢の顔馴染みの人の参加が欲しいです。お逢いできるとうれしいので…。

「M.A: 昭和38年卒」

●ボランティアで「岩手県立博物館友の会」の会報編集の仕事をして10年になります。

ここで覚えたアドビ Photoshop の手引き書を作りました。版は CS-2 及び Elements-V2 と古いのですが、操作の基本は変わりません。A4判28頁で、基本操作からレイヤー操作、CS2のバッチ処理までできるようになります。希望あれば CD-R で送ります(無料)、ご連絡を。

Tel: 019-637-0055

〒020-0834 盛岡市 永井20-17-86

「H.T: 昭和38年卒」

●いつも何かとありがとうございます。

私達のときも就職難でしたが、お蔭様で、都立高等学校長(3校)、都教育相談員、都教職員研修センター(初代教授)、他などを経験させていただきました。まだ、区の行政の審議委員など、ちょぼちょぼですが働いています。日本生態学会では70歳まで正会員で、発表などしておりました。後輩の皆さん、健康に留意され、意欲をもって日々、活躍されますように。

「H.T: 昭和38年卒」

● 20 数年前に高知県在住者の同窓会を開催し、その後も時々開催しています。数年前に辟雍会(東京学芸大学全国同窓会)の発足を知らされ、高知県支部を結成しました。支部結成が早かった関係か、辟雍会理事として末席を汚しております。5月の理事会、秋の全国代表者会には出席しています。「生物科同窓会」の掲示を見かけることもあり、懐かしく思います。しかし見通しが良かった小金井から現在の樹木で鬱蒼とした小金井への変換がまだ信じられません。

「K.Y: 昭和38年卒」

【15期】

●9年前に筋無力症となって寝たきりになりました。歩けるようになったのですが、未だに手足のしびれ、歩行困難、足の付け根の違和感が残っております。学芸大学には、スッカリご無沙汰になってしまいました。何も気にせず、歩けるようになって、あちこち出かけてみたいものです。

「S.O: 昭和42年卒」

【19期】

●昨年、都の公立中学校を定年退職しました。今は理科からは少々離れ、ハングルや中国語、そして今年からは体操教室、大正琴とマイペースながら学習、稽古をし始め続けています。控えていた海外旅行にも近間から出始めています。定年前にはできなかったことに目を向け、行動に移して視野を広げ、さらにはもう少し気持ちに余裕を持って、身近なことにも日々感動できるようになりたいと思うこの頃です。

「N.O: 昭和46年卒」

●紙面同窓会に感謝！！

昭和46年卒業の原田です。定年退職後、再任用を経て、現在小平市教育委員会で教育アドバイザーをしています。若い先生方の応援団として、指導助言に当たっています。

学級経営、集団の育成、人間関係の育成等について、大学で学ぶ場があれば、心構えや方策を持って臨めるのではと、若手先生方の代弁です。人に学び、人を包み、人を育てられる先生を育てたいと願っています。

「M.H: 昭和46年卒」

【23期】

●一年遅れの昭和51年春ようやく卒業し、教職に就き早34年。後2年余りで退職という年齢になりました。講義棟のエゴの木と自然館とともに心をよぎるのは、あの頃もっと勉強しておけばよかったという思いです。そんな私も多くの方の支えのお陰で、小学校の校長を務めさせていただいています。感謝の気持ちを忘れず、子どもや職員のために自分ができることを精一杯やっていきたいと考えています。

「K.N: 昭和51年卒」

【27期】

●(株)情報システム総合研究所という会社を経営しています。2008年9月のリーマンショック以降、一向に上向かない経済状況の中で何とか前進させるべく悪戦苦闘の日々です。しかし、長年にわたり、私の研究開発してきたコア技術も世間に認知され、陽の目を見ることが出来るようになり、世の中に役立つようになってきました。まだまだやるべきことが山積していますが、確実に日々進化しております。

「Y.D: 昭和54年卒」

【35期】

● 35期の黒田淳子です。都立両国中高一貫校勤務です。生徒の置かれた状況は、ますます多様かつ厳しくなり、その対応に追われる毎日です。そんな中で、生物学の楽しさ面白さ不思議さを伝えたい思い、教材作りにはげんでいます。東京学芸大学生物科卒のプライドみたいなものが、私を支えてくれているような気がします。充実した大学時代を過ごせたことに、今さらながら感謝したいと思っています。

「J.K：昭和62年卒」

【43期】

● 教員生活16年目になりました。現在は愛知県の特例支援学校に勤務しています。特別支援学校でも、肢体不自由児や知的障害児に理科を教えることがあるんです。肢体不自由児の理科では、手が不自由な子どもたちにもできる実験の方法を考えるのに苦労しています。また、知的障害児の理科には教科書がないので、学習指導要領を手がかりに、何をどのように学習するかを一から考え、授業作りをしています。授業の準備に時間と手間がかかる分、子どもたちの実験に集中して取り組む姿を見たり、「できた！」「分かった！」の声を聞いたりした時の喜びは一人です。

「M.M：平成7年卒」

【47期】

● 皆様お元気でしょうか？

私は昨年より、某私大のバイオサイエンス学科で働いております。研究だけ？やっていたらよかったポストドク時代とは打って変わって、講義や雑用におわれている日々。今更ながら、先生って大変なんだな～と身をもって感じつつも、楽しんでやっています。

「M.A：平成11年卒」

● 現在、都内の小学校に勤務中です。ご承知の通り、都内の小学校の教員年齢構成は、グラフにすると40才付近を底にしたふたこぶラクダ。管理職年齢に満たない私たちは実働部隊として有り難いぐらい働かせてもらっています。母校学芸大学も教員養成大学としての真の価値を問われているとき。教育界に大きな影響力を持ち、素晴らしい教員を全国に輩出する大学で今後もあってほしいと願っております。

「H.K：平成11年卒」

【55期】

● 未だに卒業研究の実験材料に用いたヤブカラシを植え込みの中に探してしまいます。同じ雑草のドクダミにおかれていると思わず応援したくなります。

「S.U：平成19年卒」

◆平成21年度 企画講演会報告

昨年の生物科同窓会総会で開催した、鶴原先生の講演には約20数名が来場し、学芸大におられた頃と変わらぬ興味深い話に耳を傾けていました（写真）。講演について、同窓生の笠原秀浩さんに報告を寄せていただきました。

ウイルスの定義が変わる？！ 「ウイルス感染症とダーウィン医学」 健康科学大学特任教授 鶴原 喬 先生



平成21年10月31日（土）、第57回小金井祭と第11回ホームカミングデーと併せて、生物科同窓会による鶴原喬先生の講演がありました。

私が生物科を卒業したちょうど10年前と比べ、小金井祭はさらに活気が出てきたように感じました。このような素晴らしい大学祭を企画し頑張っている学生が、将来同じ職場で働くかもしれないと勝手に想像しながら頼もしく見てきました。

講演は、自然館2階のリニューアルされた生物学第1実験室で開かれました。生物科に入学した時も卒業した時もこの部屋だったなあと感慨深かったです。鶴原喬先生は学芸大学を退官なさった後、(財)新潟県環境衛生研究所先端技術センター長を経て、新規開設大学として開校した健康科学大学（図1）に教授として着任され、現在は特任教授というお立場で教育に携わっていらっしゃいます。

学芸大学においては10期44名の卒業生を鶴原研から輩出なされましたが、講演当日は1、2、4、8、9、10回生から、計9名が集まりました。卒業生の年齢は32歳から42歳ぐらいになっており、子育て真っ最中の世代です。お子さんを連れての講演会の参加の方もいらっしゃいました。先生の人望のなせる業だと感じました。

講演は「ウイルス感染症とダーウィン医学」と題して行われました。学生時代から不勉強であった私には意味がさっぱりわからないものの、その言葉の



図1：健康科学大学

魅力に惹かれました。

ダーウィン医学とは別名、進化医学。進化の理論である自然選択説を考慮に入れた医学だそうです。従来の医学は主に病気の原因遺伝子の存在を探し、「何が病気をおこすのか」「どのように病気になるのか」を考えてきました。しかし、このダーウィン医学では「病気の原因遺伝子が進化の過程においてなぜ自然淘汰されなかったのか」「なぜ病気になるのか」というヒトの病気の意味を進化の視点から解き明かそうとする生物学といえます。

講演はそのダーウィン医学と先生の専門である

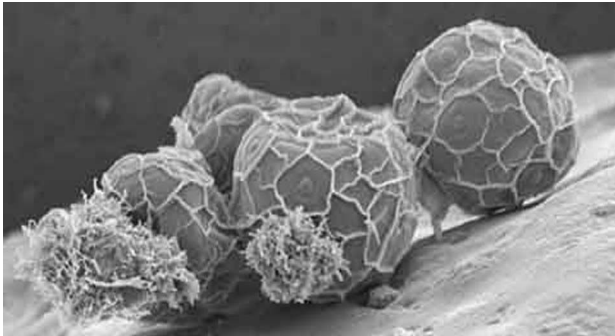


図2：Acanthamoeba 脱シスト写真

(Kasahara 他、1999)

(第55回 日本電子顕微鏡学会写真コンクール入賞)

ウイルス学を絡めたお話でした。その中で特に印象的だったのは「ウイルスに感染するウイルス」。さらに縁を感じたのはその感染されたウイルスの宿主は、先生が学芸大学で研究材料としていた *Acanthamoeba* (図2) から発見されたということでした。

Acanthamoeba castellanii や *Acanthamoeba polyphaga* と言ったら、卒業生には懐かしい言葉ではないでしょうか。

1992年、イギリスの冷却塔の水中にいた *A.polyphaga* から発見されました。当初、あまりの大きさ(約400nm)に細菌であろうと考えられていたのですが、2003年に細菌ではなくウイルスであることが判明し、2005年、細菌を模倣しているウイルス(mimicking microbes virus)ということからミミウイルス(mimivirus)と名付けられました。2008年に

はミミウイルスよりもさらに一回り大きなウイルス、ママウイルス(mamavirus)がパリの冷却塔の水中にいた *A. castellanii* から発見されました。さらに驚く

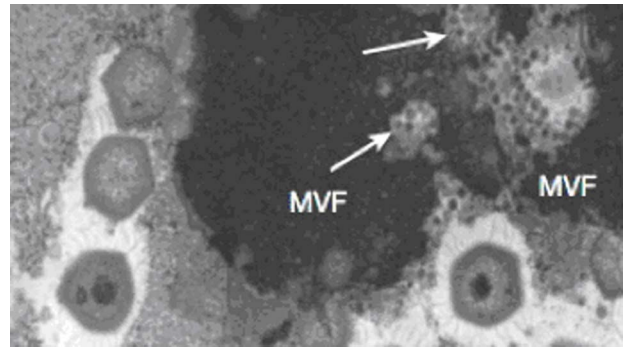


図3：MVF(Mamavirus virus factory)が宿主で矢印が感染したSputnik virus

(La Scoia et al. 2008)

ことにその大きなママウイルスの中には別なウイルス(Sputnik virus、約50nm)が感染していたのです(図3)。先生のご講演を聞き、なぜこのような巨大ウイルスが存在し、他のウイルスを増殖させているのか、ダーウィン医学の観点からまた新たな科学の1ページが生まれそうだと感じました。



2009年11月14日 新宿にて

笠原 秀浩 (47期・99年卒)
(北区立滝野川小学校主任教諭)

~~~~~  
このご講演を機に、鶴原研究室の同窓生から鶴原先生へメッセージが寄せられましたので、ここで紹介させていただきます。

・会社、移りました。  
先生、ごぶさたしてますー！

H.T (39期・91年卒)

・中学校教員として18年目になります。長男は中2、長女は小6、次女は年中になりました。忙しい日々を送っています。山梨に住んでいながら、鶴原先生の職場にもなかなか行けず申し訳ありません。お会いできる日を楽しみにしております。

K.W (39期・91年卒)

・昨年末、ソフトコンタクトレンズ着用で「アカントアメーバ角膜炎・失明の恐れがある」という記事を目にしました。他の方は“失明”ということに注目す

ると思いますが、私はアカントアメーバにとびついてしまいました(笑)。当時すでにアメリカではアカントアメーバ角膜炎が注目されており、日本でも症例が確認されていて、卒論のテーマが角膜炎の原因となる *Acanthamoeba* の増殖阻害というものであったからです。現在、私は都内の市立中学校に勤務していますが、自己紹介のとき必ず「毎日顕微鏡でアメーバを見てたんだよ。」と話しています。研究で使っていた *polyphaga* 株をポリちゃんといっただけでかまって育てていました。学生時代はテニスサークルの活動にも力が入り、先生にはご迷惑をかけた、応援していただいたりしたのを思い出します。私は出来たばかりの鶴原研に所属していましたがそのときからずっとお酒あり、料理ありの居心地の良い研究室でした。

Y.I (40期・92年卒)

・1・2年生の時、担当教官だった片山先生の退官に伴い、先日学大に出掛けました。自然館も、駅や学大の周囲も随分変わりましたが、それでもあの頃のことを懐かしく鮮やかに思い出せるのは、不思議だなあ思いました。桜の花も学生の頃と変わらずきれいでしたよ。

M.N (40期・92年卒)

・今回の先生の講演を拝聴することがかなわず残念です。桜の季節になると研究室での花見という名目での飲み会を思い出します。飲み会だけでなく、普段から他の研究室の学生の来室が絶えない「居心地」のよい鶴原研でした。

現在は江戸川区の中学校にて事務仕事と生活指導に追われております。

S.K (41期・93年卒)

・遠方のため、なかなか大学へ足を運ぶことが難しいですが“鶴原研”なつかしいです!!先生もお元氣そうで、本当にうれしい限りです。一昨年、教職を退き、現在は子育てに専念しています。

Y.K (41期・93年卒)

・鶴原先生の記念講演を拝聴できず、申し訳ありません。大学院の時に、鶴原先生、同輩2名と共に、帯広畜産大学で開催された原生動物学会で発表することが思い出に残っています。

今は、茅ヶ崎市の教諭として勤務しています。鶴原先生におかれましては、益々のご活躍を祈念しております。

S.M (42期・94年卒)

・ご無沙汰しております。昨年7月に二人目が生まれ、育休中で毎日のんびりと過ごしています。

S.H (43期・95年卒)

・大変ご無沙汰しております。先生のお変わりのな

いご様子、驚くばかりでございます。

さて現在私は、治験関連の仕事をしております。また結婚することができまして、昨年の11月にパワイルスとなり、息子を増殖させました。

このような機会に「鶴原研」のことを思い出すたび、私のナイーブハートが疼きます。またいずれお酒の席をご一緒できる日を楽しみにしております。

K.O (43期・95年卒)

・お手紙をいただき、当時のことをなつかしく思い出しました。私は今は、2人の子どもの育児をしながら、小学校のスクールアシスタントとして働いています。時間に追われっぱなしの毎日です。また、鶴原先生をはじめ、皆様にお会いできる機会を楽しみにしております。

N.S (44期・96年卒)

・歌と踊りをこよなく愛する愛娘4歳と、毎日ただただ楽しく過ごしております。

歌と踊りと酒をこよなく愛する母

T.N (45期・97年卒)

・鶴原研7回生の山崎美穂です。二十代は記者+ディレクターなどのメディアの仕事に没頭していました。三十代の今、二人の娘の母親となりました。プラス横浜市の教員採用試験にチャレンジして小学校の先生してます。英語活動に力をいれている毎日です。もちろん理科も楽しく教えてます!!

M.S (45期・97年卒)

・鶴原研を旅立って13年、引き続き化粧品品の営業として、福岡県にて忙しい日々を送らせて頂いております。

K.T (45期・97年卒)

・0才、2才、5才の3人の子どものママになりました♪

Y.S (46期・98年卒)

・鶴原先生、ご無沙汰しております。先生の記念講演を拝聴できず、申し訳ありません。私は今、新潟で教諭として勤務していますが、授業にて「アメーバ」が出てくると鶴原研の楽しかった日々を思い出します。先生、これからはお身体に気をつけてお過ごしください。

A.Y (46期・98年卒)

・鶴原先生のエキサイティングなご講演を拝聴する中で、研究室の外の書棚にあった本がどれも面白そうで(否、研究室の中にあつたお酒&お料理がどれも美味しそうで!?)鶴原研の門を叩いたんだっけ・・・そんなことを思い出しました。現在は、聖マリアンナ医科大学に勤務し、研究に、学生の指導にと、忙しくも楽しい日々を送らせていただいております。

ります。

H.W (47期・99年卒)

・卒業して十年ちょっと経ちますが、学大の先生方 & 研究室メンバーで集まると一瞬にして学生時代に戻りますね。

鶴原先生の講演、大変興味深い内容でした。ちょうどあの講演の直後にうちのクラスもインフルエンザで学級閉鎖に・・・。

大学を卒業後は、暫く海外生活も楽しみましたが、3年前に東京に戻り現在は小学校に勤務しています。

Y.I (47期・99年卒)

・鶴原先生、すばらしい講演をありがとうございました。懐かしい自然館で先生の講演を聞いていると学生に戻ったような錯覚におちいりました。卒業してからも時々お酒片手に先生の楽しい講義(?)を受講させていただくのがいつも楽しみです。

今は理化学研究所 免疫アレルギーセンターで勤務しております。

Y.Y (47期・99年卒)

・鶴原先生の講演を学生気分で聞かせていただきました。ここ何年間は育児に専念(?)する毎日です。外部と隔離されておりますので、講演の内容には全くついていけなかった自分にショックを受けました。最近先生とは学問の話ではなく子供や孫(先生はジジバカで〜す(暴露))の話ばかりしていますよね。分野は違うものの、うちの主人の研究室も鶴原研みたいになったらいいなあと思い、私も先生の奥様のようになればと日々努力していきます。先生、これからも末永くご指導の程よろしく願いいたします!

C.Y (47期・99年卒)

・今回の鶴原先生の講演をきっかけに、約10年ぶりに学芸大学に足を踏み入れることができました! 自然館は改築中で新しいにおいがしましたが、先生をはじめ先輩方々もおかわりなくあの頃の「鶴研」の空気そのままです。卒業後は生物から離れてしまいましたがいつまでも「アメーバ」に反応する私でありたいと思っています。

M.F (48期・00年卒)

## ◆平成21年度生物科同窓会総会の報告

平成21年度総会が昨年10月31日(土)に、学芸大学のホームカミングデーに合わせて、午後2時から東京学芸大学自然科学研究棟(自然館)2階生物学第一実験室で開催されました。そして、次の事項について審議され、承認もしくは決議されました。

- ①平成20年度会計報告
- ②同21年度予算案
- ③自然観察会は来年度を秋(10月)に実施すること
- ④同窓会ニュース編集委員会の設立の方向で検討を開始すること
- ⑤生物科同窓会規約を第17条「本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。」を「本会の会計年度は1月1日に始まり同年12月31日に終わる。」と改定し、移行措置として「平成22年度会計は4月1日に始まり同年12月31日に終わるものとする。」としたこと(※)。

~~~~~  
※ 事務局からの解説：現行の規約では、総会をホームカミングデー(11月)に開くことになっており(第13条)、総会の開催日がその年度の間中点になることが問題とされた。その理由は、その年度の会計報告は翌年の4月以降でなければできないため、総会では前年度の会計報告を審議することになる(例えば、21年度総会では20年度の会計報告をすることになる)。そして、この会計報告に基づいて次年度の予算案を審議することになるが、会計が既に4月から始まっているのにも関わらず、11月の総会で審議することになる(例えば、21年度総会では、21年度の予算案を11月、つまり約6ヶ月遅れて審議することに

なる)。この矛盾を解消するために、11月に中間報告を行い、それに基づき同時に翌年度の予算案を審議するように規約が改定された。また、最終の決算は翌年度の総会時に審議されることになる。

なお、21年度総会報告及び改定規約についての詳細は、生物科同窓会ホームページ(下記 URL)をご参照ください。

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~biology/seibutsuka/dosokai.htm>

◆大学での出来事

生命科学分野の最近の様子

現在、生命科学分野のスタッフは、10人で、昨年と変わりありません。生物学科(後に生命科学分野と名称変更)から環境科学分野に移籍され、活躍されておられた片山舒康先生が、本年3月に早期退職されました。先生は昭和49年、本学に着任され、36年の永きにわたり、植物生理・生態学、生物教育分野で活躍され、現職教員との共同による教材・実験開発研究などで優れた業績を上げられ、また多くの逸材を輩出されました。また留学生センター長などを歴任され、大学の管理・運営にもご尽力いただきました。

分野内では、吉野正巳先生が附属高等学校校長の4年の任期を終え、本年4月から大学に戻られました。また、4月からは飯田秀利先生が附属小金井小学校に校長として着任されました。

自然科学系研究棟、完全リニューアル

自然科学系研究棟1号館(旧称：自然館)の改修工事が、今春、完了しました。3年に渡る工事の間、常

にどこかの場所が工事用の防護幕で覆われていたが、ようやく建物の全景がお目見えしました（写真）。



外壁の色は、従来の暖かみのあるアイボリー系から、渋さのあるライトグレーに変わりました。また、各階の間に埋め込まれていた茶色のタイルのストライプがなくなり、替わって1階から屋上までグレーに塗られたスチールカバーがアクセントとして取り付けられ、重厚感を醸し出しています。

すべての入り口にオートロックが取り付けられ、セキュリティが高まりました。これにより、夜間と土日は暗証番号を使用してドアを解錠します。

廊下は従来の石の床に変わり、白色のビニール張りとなりました。この床は少しでも汚れると大変目立ちますが、むしろ、使用者達が建物をきれいに使うことを促す効果があるのかもしれない。

廊下にはセンサーが設けられ、人が歩くと自動的に蛍光灯が点灯し、通過後暫くすると自動的に消灯し、

省エネ効果を上げています。

この改修工事により、全室に空調が完備しました。冷房にはガスヒートポンプが使用されており、電気の節約が行われています。

建物の工事と同時に行われた中庭の整備では、芝生が生える明るい庭にしたいという案が多数から支持され、学内の希少樹木5種を残して、鬱蒼と茂っていた木々はすべて伐採されました。

研究室は以前より面積が広がったところもある一方で、廊下に物を置けなくなり、それを研究室に取り込んだため以前より狭くなったところもありと、部屋により一喜一憂といったところのようです。

今回の工事で、多くの研究室の場所が移動しました。

卒業生の方、研究室を訪れるときは、部屋の場所をお確かめの上ご来学ください。

卒業論文発表会・修士論文審査会（公開）のお知らせ

平成22年度の卒業論文発表会は2011年2月5日（土）、6日（日）午前9時から行われます。後輩の研究成果を是非ご覧になってください。また、2月6日（日）午後1時より修士論文審査会を行います。公開審査ですので、発表はどなたでも見ることができます。これらの発表会場は北講義棟 N411教室を予定しております。卒業論文発表会、および修士論文審査会の日程を含めた詳細は、来年1月に生物科同窓会のホームページでお知らせいたします。

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~biology/seibutsuka/dosokai.htm>

◆会費納入等のごお願い

平成21年度～24年度の会費を集めています。未納の方は郵便振替にて2500円をご送金ください。

口座番号：00170-1-21830

加入者名：学芸大生物科同窓会

なお住所変更の際には、下記までご一報ください。

電話/FAX 042-329-7521 (庶務:吉野)

E-mail:mayama@u-gakugei.ac.jp (会計:真山)

今回の紙面同窓会では、平成19年度までの会費を納めていただいた3、7、11、15、19、23、27、31、35、39、43、47、51、55期の皆さまに原稿依頼の葉書を送りました。来年は4、8、12、16、20、24、28、32、36、40、44、48、52、56期の皆さまに原稿を依頼する予定です。たくさんのお声をお待ちしております。

◆編集後記

今回は、ニュース編集を青木良（11期生、前幹事長）と岡崎恵視（13期生、現幹事長）が担当いたしました。昨年は、外国出張中の真山茂樹先生（会計幹事、26期生）のお手伝いとして編集に携わりましたが、今年は原稿集め（紙面同窓会原稿依頼も含めて）から、紙面割付、印刷所への原稿入稿、校正までの全ての作業を担当することになりました。昨年の総会で、「編集委員会」の設立が議題に上りましたが、未だ設立には至らず、今回は暫定的に編集委員を務めました。そのため、紙面作成や内容にご満足いただけない部分が多々あるとは思いますが、とにかくこのニュース NO.10が完成・発行できて安堵しています。このニュースが生物科同窓生としての意識の高揚や会員相互の情報交換に役立つことを願っております。

（青木 良・岡崎恵視）